

関係各位

2025 年 6 月 26 日
ロッテの経営正常化を求める会
株式会社光潤社
代表取締役社長 重光宏之

株式会社ロッテホールディングスの定時株主総会への株主提案の提出、
及び同社過去最大最終赤字の判明に関するお知らせ

株式会社ロッテホールディングス（以下「ロッテホールディングス」といいます。）の最大株主である株式会社光潤社（以下「光潤社」といいます。）は、ロッテホールディングスのコーポレート・ガバナンスの機能が欠如している現状を抜本的に糾すため、2025 年 6 月 27 日に開催される予定のロッテホールディングスの定時株主総会（以下「本定時株主総会」といいます。）に向けて、下記のとおり、株主提案を提出いたしましたので、ご報告いたします。

また、ロッテホールディングスの本定時株主総会の招集通知に添付された 2025 年 3 月期の連結計算書類において、同社設立以来最大となる親会社株主に帰属する当期純損失 1,626 億円の最終赤字を計上していることが判明いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 株主提案の趣旨

ロッテホールディングス代表取締役会長の重光昭夫氏は、2019 年 10 月に、韓国において贈賄罪・背任罪など複数の罪状に関して有罪判決が確定したにも拘わらず、現在もなお、ロッテホールディングスの代表取締役に留まり続けております。

代表取締役が刑事事件で有罪判決を受けるという事態により、約 70 年に亘って従業員たちが築き上げてきたロッテグループのブランド価値・レピュテーション・企業価値は大きく毀損しました。それにも拘わらず、ロッテホールディングスにおいては、有罪判決を受けた当人を始めとして、誰も責任を取らず、原因の究明や再発の防止も図られていない等、コンプライアンス及びコーポレート・ガバナンスの観点のみならず、企業倫理の観点からも理解不能な状態に陥っております。

さらに、重光昭夫氏がロッテホールディングスの代表取締役に就任して以降、ロッテホールディングス及び傘下のロッテグループ企業における経営成績は悪化し、繰り返される巨額の特別損失、2021 年 3 月期における過去最大（当時）の赤字計上、韓国上場子会社における時価総額の大幅かつ継続的な減少、流動性危機の発生など、経営不振が続き、経営者としての手腕の面においても評価するべき点を見つけることが極めて困難です。

こうした中、ロッテホールディングスの韓国における子会社群においては、昨年、韓国ロッテグループにおける経営危機から自ら「非常経営体制」を宣言した中で、従業員などの大規模なリストラや優良なグループ会社・資産の売却が行われる一方、重光昭夫氏は、業績不振を招いた自らの責任を全く省みることなく、そうした中間的な子会社群から配当や役員報酬名目で巨額の金銭を得ている状況です。

このような状況については、韓国の議決権行使助言機関 CGCG (Center for Good Corporate Governance) も、重光昭夫氏が過剰な兼職によって取締役としての職務を忠実に遂行できるのか懸念されることや、韓国における有罪判決を理由に、ロッテケミカル及びロッテショッピングにおける重光昭夫氏の取締役選任に反対するとともに、他の系列会社の役員を兼務しながら高額な報酬を受領するのは合理性及び公平性を欠くと指摘してロッテ持株、ロッテケミカル、ロッテウェルフード、ロッテ七星の取締役報酬限度額に関する議案に反対しております。ロッテホールディングスの最大株主としても、こうした指摘はいずれも至極まっとうなものであると受け止めております。

ロッテグループがこうした状況から脱却し、真にステークホルダーの皆様をはじめ、社会からの信頼を取り戻すためには、コーポレート・ガバナンスの抜本的な刷新・建て直しが不可欠であり、その実現のため、取締役として重光宏之を選任する議案、及び有罪判決を受けるような不適切な人物がロッテホールディングスの取締役に就任することを防止する観点から取締役の欠格事由を新設する定款変更議案を併せて本定時株主総会に提出いたしました。

2. 本株主提案の内容

- (1) 取締役 1 名（重光宏之）選任の件
- (2) 定款変更の件

株式会社ロッテホールディングスの定款を下記のとおり変更する。

記

株式会社ロッテホールディングスの現行の定款に、第 18 条の 2 として、以下の条文を新設する。

【変更案】

第 18 条の 2 法令（外国の法令を含む。）の規定に違反し、禁固以上の刑（外国において言い渡された同様の刑を含む。）に処せられ、その執行を終わり、又はその執行を受けることがなくなった日から二年を経過しない者（刑の執行猶予中の者を含む。）は、取締役となることができない。

重光宏之及び光潤社といたしましては、ロッテグループの社員とそこご家族ほか関連するステークホルダーの皆様のために、コーポレート・ガバナンス及びコンプライアンス体制を立て直し、経営正常化を実現するためあらゆる手段を尽くします。引き続き、皆様のご理解及びご協力を賜りますよう、よろしくお願い致します。

3. 2025 年 3 月期における過去最大最終赤字の計上について

ロッテホールディングスの本定時株主総会の招集通知に添付された 2025 年 3 月期の連結計算書類において、以下のとおり、深刻な経営状況にあることが判明しております。重光宏之及び光潤社といたしましては、ロッテグループの経営正常化の必要性が更に高まっているものと考えております。ロッテホールディングスの 2025 年 3 月期における連結貸借対照表及び連結損益計算書の写しにつきましては別紙をご参照ください。

【連結貸借対照表】

- 有利子負債の総額は、短期借入金 1 兆 5,981 億円、1 年内償還予定の社債 1 兆 483 億円、社債 1 兆

6,683 億円、長期借入金 1 兆 5,178 億円、リース債務 7,531 億円（1,301 億円（流動負債）+6,230 億円（固定負債））を合わせて 6 兆 5,859 億円（2024 年 3 月期：6 兆 7,959 億円）と引き続き極めて高い水準。

- 流動比率は、流動資産 4 兆 1,072 億円（同 4 兆 5,854 億円）に対して、流動負債 4 兆 5,542 億円（同 4 兆 9,024 億円）で、90.2%（同 93.5%）と 100%を大きく下回り、2024 年 3 月期より更に悪化。

【連結損益計算書】

- 売上高 7 兆 7,204 億円（2024 年 3 月期：7 兆 2,346 円）に対して営業利益が 391 億円（同 1,271 億円より大幅減）となっている。（営業利益率がわずか 0.5%）
- 他方、支払利息は 2,652 億円（同 2,395 億円よりも悪化）が計上されており、支払利息を営業利益では賄っていないだけでなく、営業利益よりも 6.7 倍もの金利負担を負っている。
- 有利子負債が前期比で減少しているにも拘わらず支払利息が増加していることから、調達金利の上昇・悪化が示唆される。
- 毎年恒常的に発生している特別損失は、2025 年 3 月期においても 2,331 億円（同 681 億円）発生している。
- 最終的に、親会社株主に帰属する当期純損失として、過去最大となる 1,626 億円の純損失（同 4 億円の純利益）を計上。

以上

連結貸借対照表
(2025年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	4,107,259	流動負債	4,554,294
現金及び預金	1,364,133	支払手形及び買掛金	530,299
受取手形、売掛金及び契約資産	847,472	短期借入金	1,598,169
営業貸付金	607,754	1年内償還予定の社債	1,048,366
リース債権及びリース投資資産	172,596	リース債務	130,138
有価証券	36,824	未払金	332,929
商品及び製品	517,287	未払法人税等	17,141
仕掛品	90,029	デリバティブ負債	45,791
原材料及び貯蔵品	200,865	その他	851,458
デリバティブ資産	28,280	固定負債	4,143,682
その他	332,145	社債	1,668,330
貸倒引当金	△90,132	長期借入金	1,517,886
固定資産	8,314,845	リース債務	623,049
有形固定資産	5,467,844	繰延税金負債	85,304
建物及び構築物	1,424,111	退職給付に係る負債	10,534
機械装置及び運搬具	1,336,175	デリバティブ負債	7,206
土地	1,157,015	その他	231,370
使用権資産	493,154	負債合計	8,697,977
建設仮勘定	829,268	(純資産の部)	
その他	228,119	株主資本	606,354
無形固定資産	468,356	資本金	217
のれん	226,558	利益剰余金	606,155
その他	241,798	自己株式	△17
投資その他の資産	2,378,644	その他の包括利益累計額	153,358
投資有価証券	868,587	その他有価証券評価差額金	7,432
長期貸付金	212,250	繰延ヘッジ損益	△2,757
繰延税金資産	369,619	再評価積立金	173,482
デリバティブ資産	28,737	為替換算調整勘定	△21,854
その他	977,196	退職給付に係る調整累計額	△2,944
貸倒引当金	△77,747	非支配株主持分	2,964,414
資産合計	12,422,104	純資産合計	3,724,127
		負債・純資産合計	12,422,104

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(自 2024 年 4 月 1 日 至 2025 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

科目	金額	
売上高		7,720,415
売上原価		5,999,375
売上総利益		1,721,040
販売費及び一般管理費		1,681,869
営業利益		39,170
営業外収益		
受取利息	74,554	
受取配当金	13,592	
持分法による投資利益	2,277	
デリバティブ評価益	43,062	
その他	47,349	
		180,836
営業外費用		
支払利息	265,255	
為替差損	47,745	
その他	81,110	
		394,111
経常損失 (△)		△174,104
特別利益		
固定資産売却益	24,587	
投資有価証券売却益	35,505	
減損損失戻入益	4,577	
子会社清算益	18,369	
その他	786	
		83,827
特別損失		
固定資産処分損	13,961	
減損損失	191,370	
投資有価証券評価損	25,793	
その他	2,003	
		233,129
税金等調整前当期純損失 (△)		△323,406
法人税、住民税及び事業税	43,561	
法人税等還付税額	△4,483	
法人税等調整額	△54,859	
		△15,781
当期純損失 (△)		△307,625
非支配株主に帰属する当期純損失 (△)		△144,992
親会社株主に帰属する当期純損失 (△)		△162,632

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。